



# 県政世論調査

---

平成24年度

---

概要報告書



静岡県

# 目 次

	ページ
調査の概要	1
生活についての意識	2
暮らし向き	3
日常生活の悩みや不安	4
静岡県の住みよさ	5
県の仕事に対する関心	5
県政への関心度	6
行政機関への意見や要望、不満	8
広報媒体の浸透度	10
日常の課題や生活における意識	17
多文化共生社会の形成に関する意識	17
外国人住民との付き合い	17
「多文化共生」の認知状況	18
外国人住民への親しみ	18
仕事と生活の調和の実現に関する意識	18
「仕事と生活の調和」の実現	19
防犯及び交通事故に関する意識	19
犯罪被害に遭う不安度と犯罪の種類	20
犯罪発生防止の点から見たあなたのまちの状況	21
交通事故に遭う不安度と交通違反の種類	22
社会資本整備の方向性に関する意識	22
今後の社会資本整備のあり方	23
より良い地域づくりのための投資	23
社会資本整備に必要な取り組み	24
ユニバーサルデザインに関する意識	24
誰もが暮らしやすいまちづくり	24
推進していくべきソフト面の取り組み	24

# 調査の概要

## 1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

## 2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 多文化共生社会の形成に関する意識
- (4) 仕事と生活の調和の実現に関する意識
- (5) 防犯及び交通事故に関する意識
- (6) 社会資本整備の方向性に関する意識
- (7) ユニバーサルデザインに関する意識

## 3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 4,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- 調査時期 平成24年6月27日～7月11日
- 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター 静岡事務所

## 4 回収結果

	20歳以上の 推定人口	標本数	回収数（率）	有効回収数（率）
東 部	1,028,208	1,338	705 (52.7%)	705 (52.7%)
中 部	979,627	1,278	749 (58.6%)	749 (58.6%)
西 部	1,070,065	1,384	817 (59.0%)	817 (59.0%)
地域不明			57 (—)	52 (—)
全 県	3,077,900	4,000	2,328 (58.2%)	2,323 (58.1%)

### この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は2,323を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者数を100%とするのを原則とした。
- 3 グラフの中の「N」（Number of caseの略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、質問の「SQ」（Sub-Questionの略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問であり、末尾に「M. A.」（Multiple Answersの略）とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

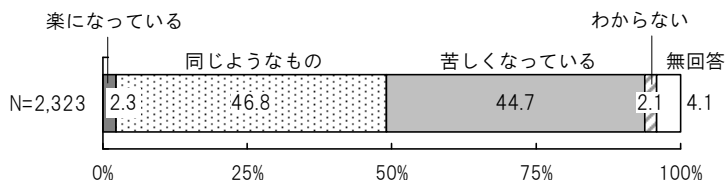
# 暮らし向き — 「苦しくなっている」という人は44.7%、40代では51.3%

**Q1** お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

**SQ** お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」とお感じの理由は何ですか。(3M.A.)

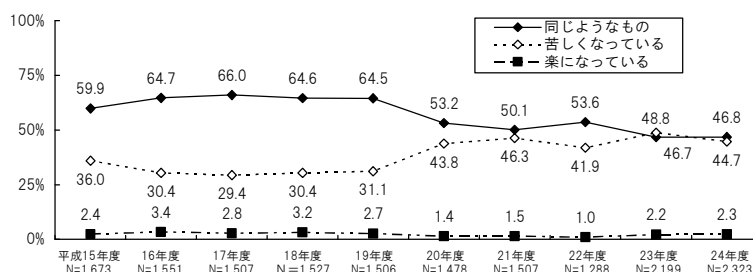
## 暮らし向き

●46.8%が「同じようなもの」と回答している。「苦しくなっている」は44.7%となっている。



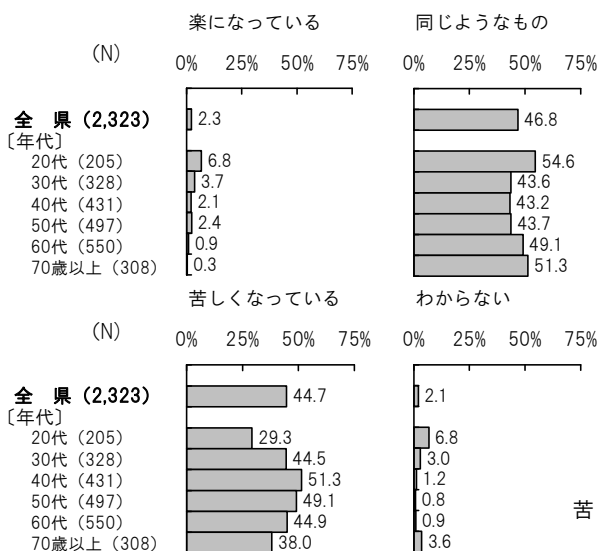
## 経年比較

●平成15年度以降の推移で見ると、平成20年度以降「同じようなもの」が6割を下回るようになり、「苦しくなっている」は、4割を上回るようになっている。



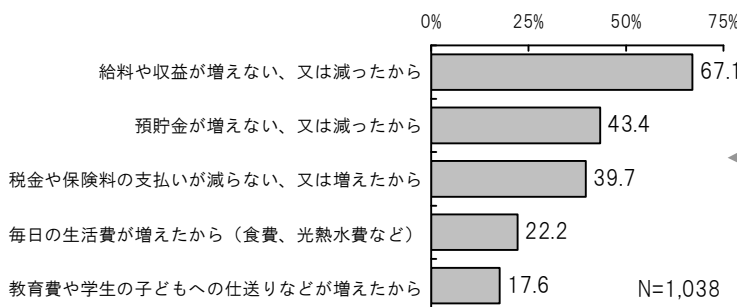
## 年代別

●「同じようなもの」が、『20代』、『70歳以上』において、半数を超えて高くなっている。また、「苦しくなっている」は、『40代』以下において、年代が上がるほど高くなり、『50代』以上においては低くなっている。



## SQ 苦しくなっている理由

●暮らし向きが「苦しくなっている」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が67.1%で最も高く、以下、「預貯金が増えない、又は減ったから」、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」の順になっている。(右図は上位5位)



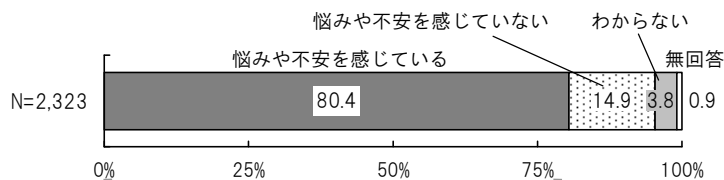
# 日常生活の悩みや不安 —— 「悩みや不安を感じている」人が80.4%

**Q2** あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に不安や悩みは感じていませんか。

**SQ** 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(M.A.)

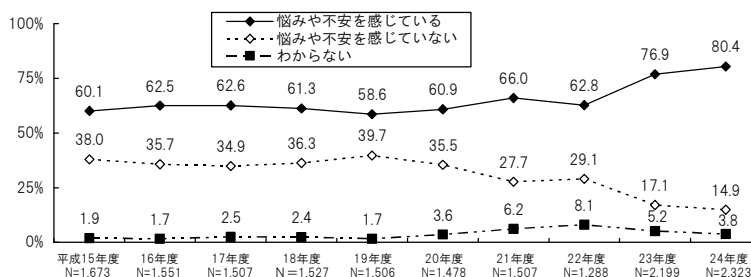
## 日常生活の悩みや不安

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は80.4%と、5人に4人の割合となっている。



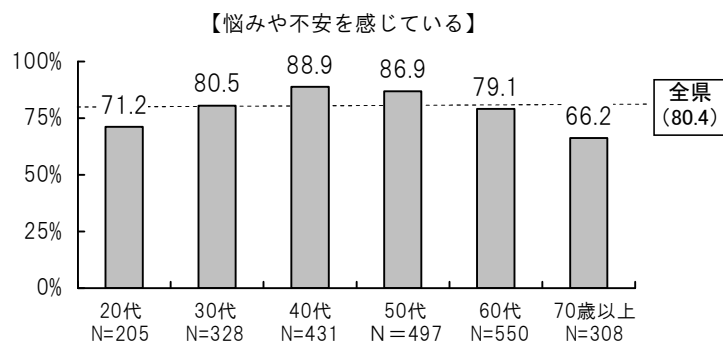
## 経年比較

●平成20年度以前は「悩みや不安を感じている」が6割前後で推移していたものの、平成21年度以降においては、高くなる傾向にある。



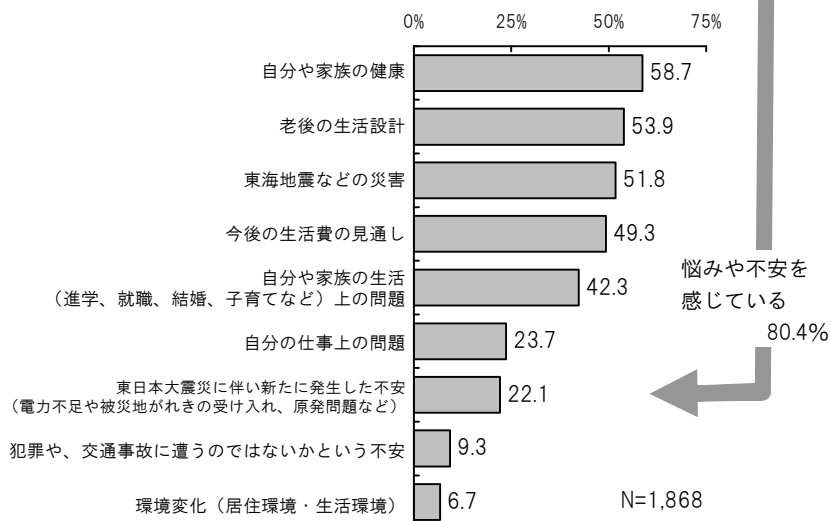
## 年代別

●「悩みや不安を感じている」が、『40代』以下において、年代が上がるほど高くなり、『50代』以上においては低くなっている。



## SQ 悩みや不安の内容

●日常生活で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容についてたずねたところ、「自分や家族の健康」が58.7%と約6割で最も高く、以下、「老後の生活設計」、「東海地震などの災害」の順となっている。(右図は「その他」を除く)

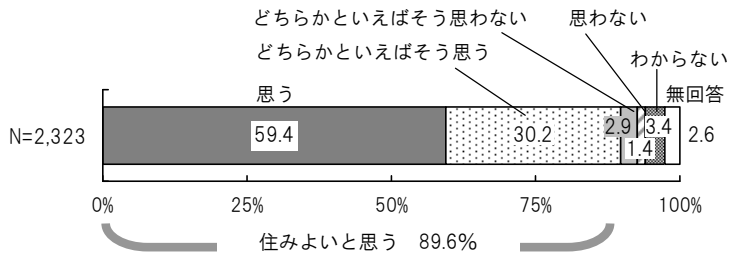


# 静岡県の住みよさ ——住みよいところだと「思う」人が 89.6%

**Q3** あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。  
**SQ** あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由は何ですか。(3M.A.)

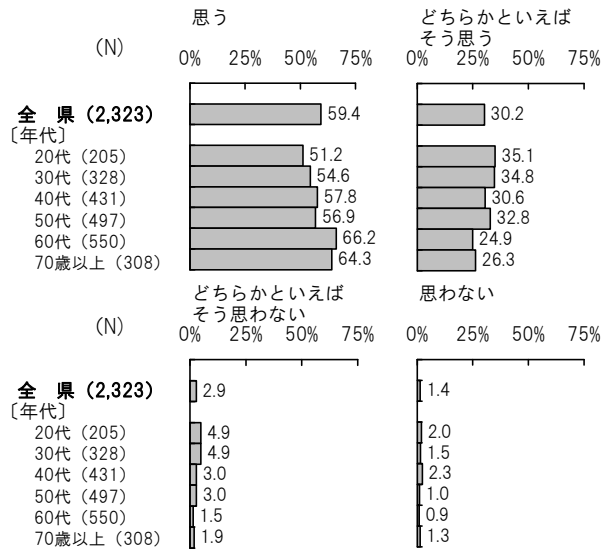
## 静岡県の住みよさ

●「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた 89.6%の人が静岡県は住みよいところだと思うと回答している。



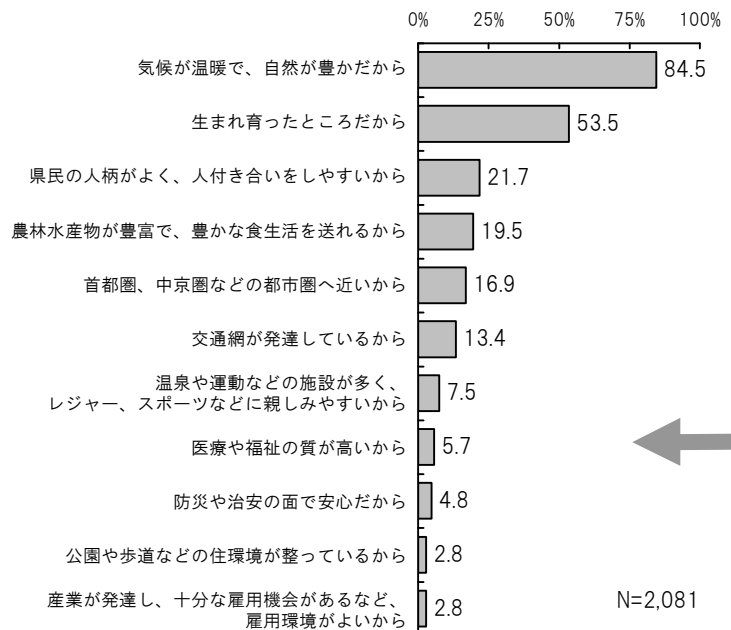
## 年代別

●「思う」が、『60代』、『70歳以上』において6割を超えて高くなっている。



## SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県は住みよいところだと「思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「気候が温暖で、自然が豊かだから」が 84.5%と8割を超えて最も高く、以下、「生まれ育ったところだから」、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」、「交通網が発達しているから」、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから」、「医療や福祉の質が高いから」、「防災や治安の面で安心だから」、「公園や歩道などの住環境が整っているから」、「産業が発達し、十分な雇用機会があるなど、雇用環境がよいから」の順になっている。(右図は上位 10 位)

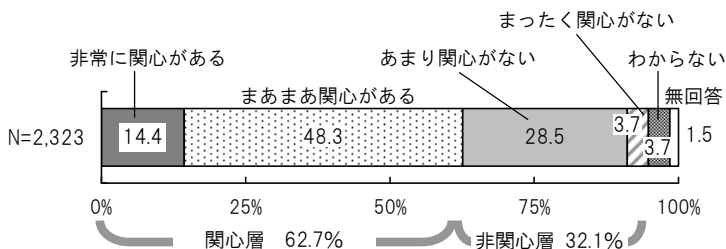


# 県政への関心度 ——— 県政に「関心がある」人は 62.7%

**Q4** あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。  
**SQ1** 県政に関心がある理由はなんですか。  
**SQ2** 県政に関心がない理由はなんですか。

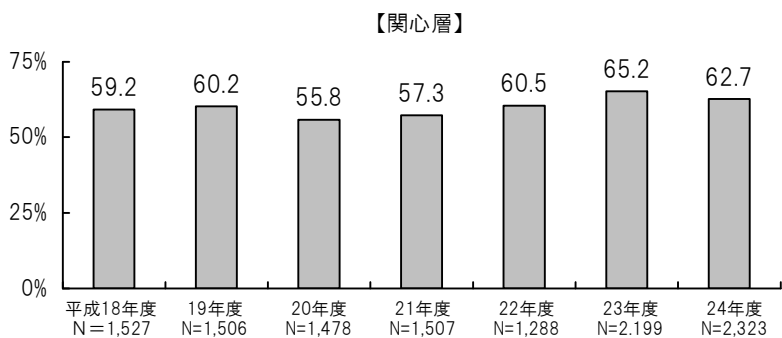
## 県政への関心度

●「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた 62.7%の人が県政に関心があると回答している。



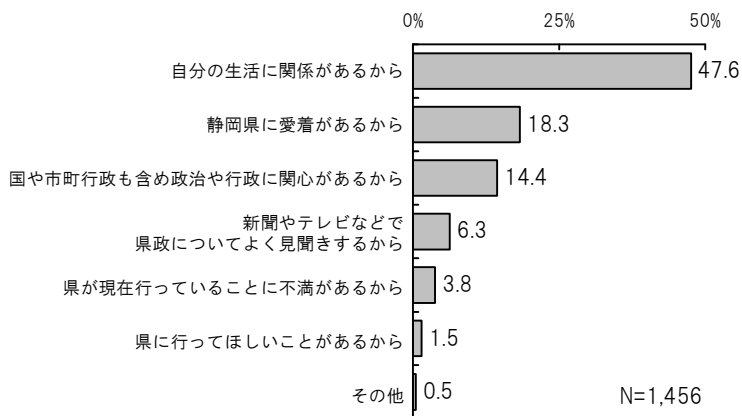
## 経年比較

●平成 19 年度までにおいて、“関心層”が 6 割程度で推移していたものの、平成 20 年度に微減し、平成 21 年度以降においては高くなる傾向にある。平成 22 年度以降は“関心層”が 6 割を超えている。



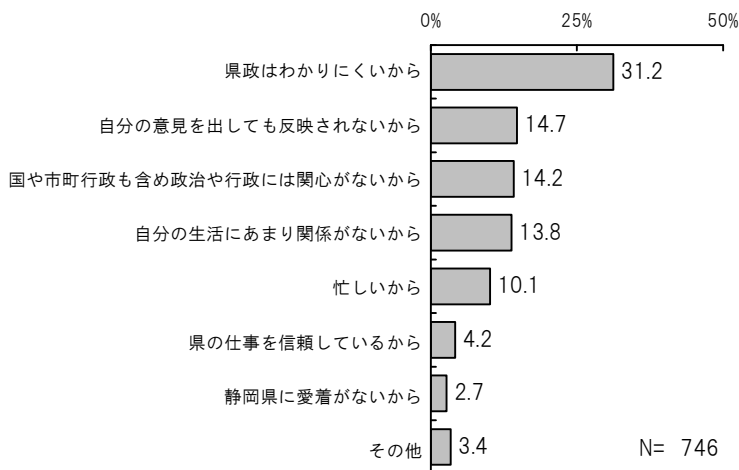
## SQ1 関心がある理由

●県政に「非常に関心がある」、「まあまあ関心がある」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「自分の生活に関係があるから」が 47.6%と最も高く、以下、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」の順になっている。



## SQ2 関心がない理由

●県政に「まったく関心がない」、「あまり関心がない」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「県政はわかりにくいから」が 31.2%と最も高く、以下、「自分の意見を出しても反映されないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」の順になっている。



# 行政機関への意見や要望、不満

——行政機関への意見や要望、不満が「ある」人は 50.9%

**Q5** あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

**SQ1** それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(M.A.)

**SQ2** それでは、そのことを県に伝えましたか。

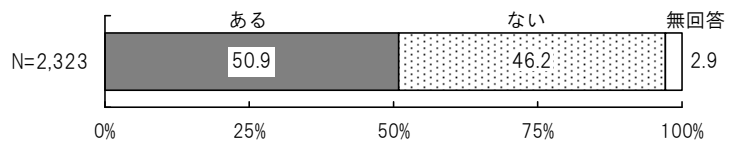
**SQ3** どのような手段で伝えましたか。(M.A.)

**SQ4** 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。

**SQ5** どうしてそのように(「伝えても無駄だと思ったから」)思ったのですか。

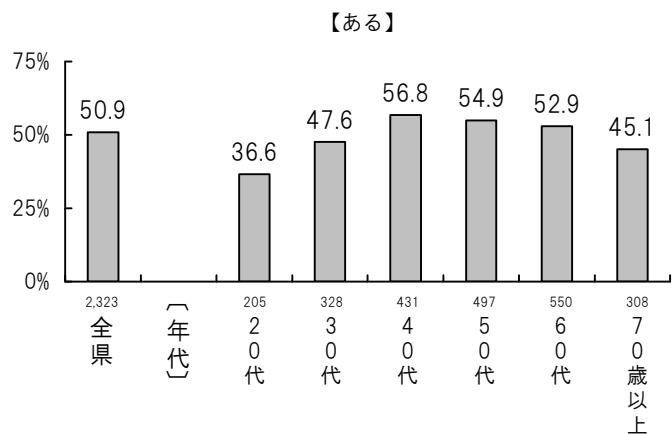
## 行政機関への意見や要望、不満

●行政機関の仕事に対して、意見や要望及び不満が「ある」と回答した人は 50.9%となっている。



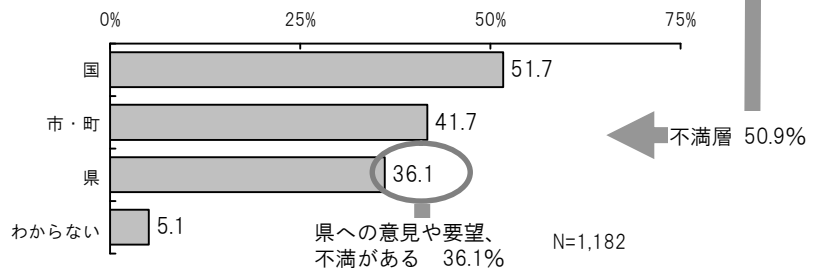
## 年 代 別

●「ある」が、『40代』以下において、年代が上がるほど高くなり、『50代』以上においては低くなっている。



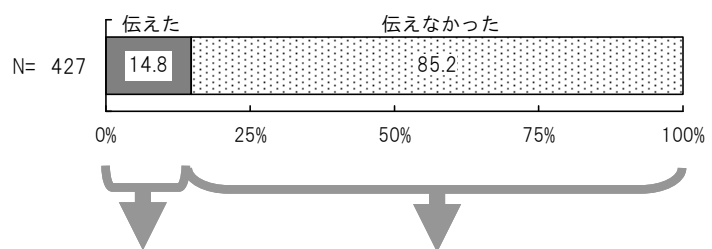
## SQ1 担当する行政機関

●行政機関の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、どの行政機関が担当している仕事をたずねたところ、「国」が 51.7%と半数を超えて最も高く、以下、「市・町」、「県」の順になっている。



## SQ2 伝達の有無

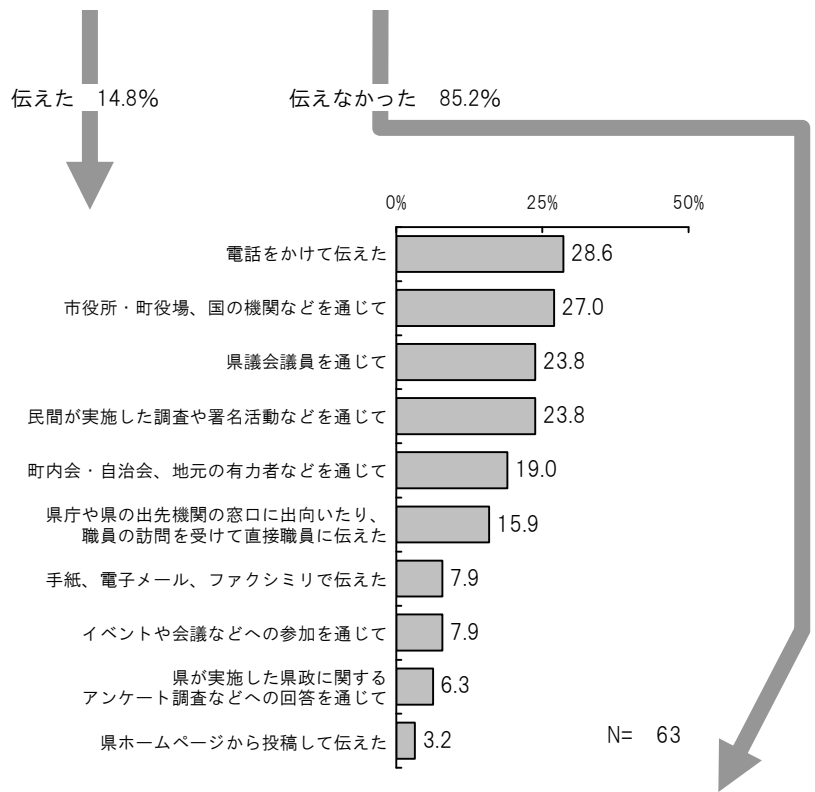
●県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、県への伝達の有無をたずねたところ、県に「伝えた」人は 14.8%となっている。





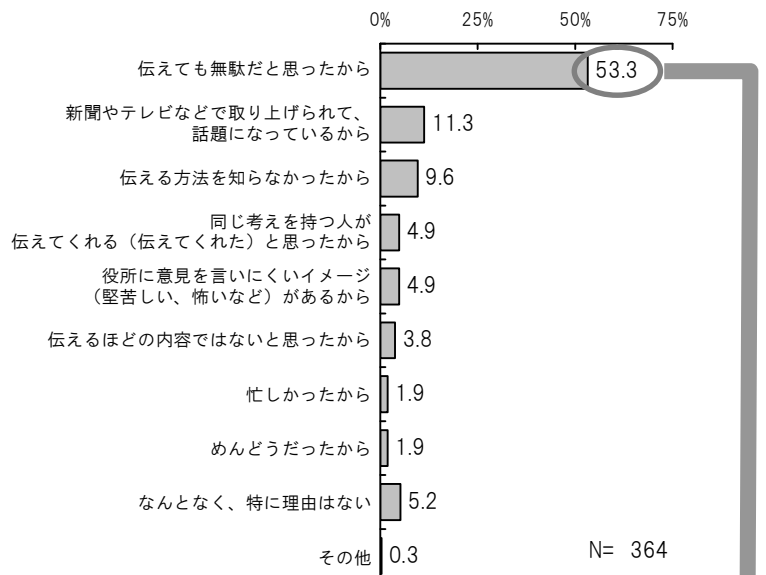
### SQ3 伝達方法

●県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えた」人に、その方法をたずねたところ、「電話をかけて伝えた」が28.6%と最も高く、以下、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」、「県議会議員を通じて」、「民間が実施した調査や署名活動などを通じて」の順になっている。（右図は上位10位）



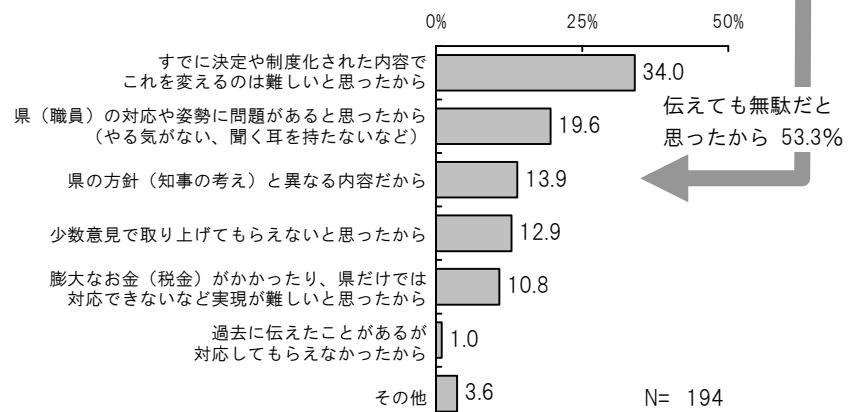
### SQ4 伝達しなかった理由

●県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人に、その理由をたずねたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が53.3%と半数を超えて最も高く、以下、「新聞やテレビなどで取り上げられて、話題になっているから」、「伝える方法を知らなかったから」の順になっている。



### SQ5 「伝えても無駄だと思った」理由

●県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人で、伝えなかった理由を「伝えても無駄だと思った」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」が34.0%と最も高く、以下、「県（職員）の対応や姿勢に問題があると思ったから（やる気がない、聞く耳を持たないなど）」、「県の方針（知事の考え）と異なる内容だから」の順になっている。



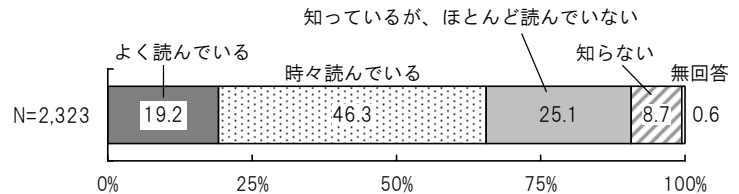
# 広報媒体の浸透度

——「県民だより」を読んでいる人は65.5%、「テレビコマーシャル」を見た人は42.8%

## Q6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

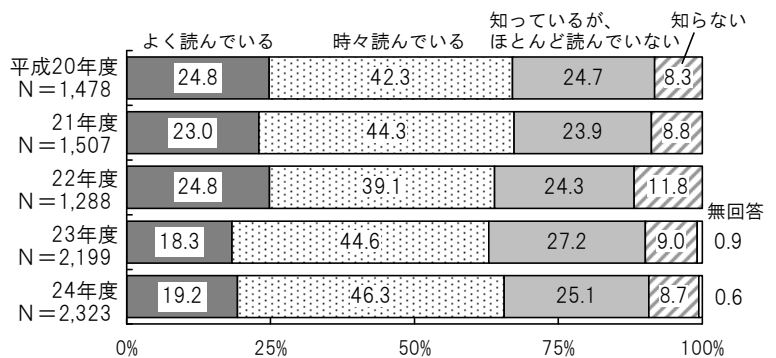
### 県民だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた65.5%が県民だよりを読んでいる。



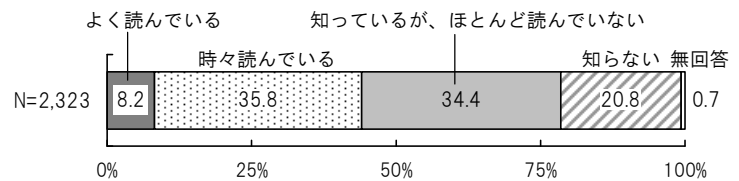
### 経年比較

- 平成23年度以降「よく読んでいる」が2割を下回っている。また、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合は、平成22年度以降低くなる傾向にあったものの、平成24年度において、やや高くなっている。



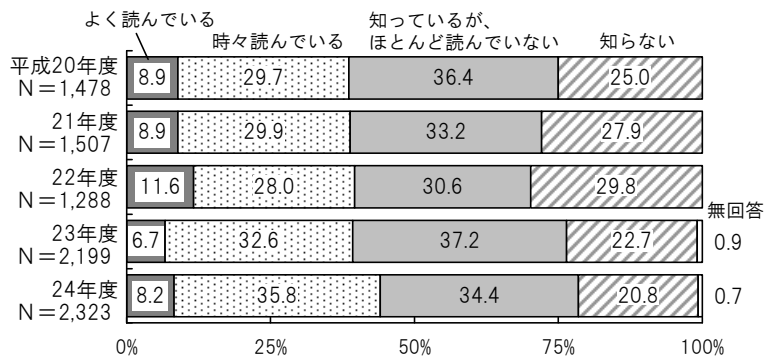
### 静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた44.0%が静岡県議会だよりを読んでいる。



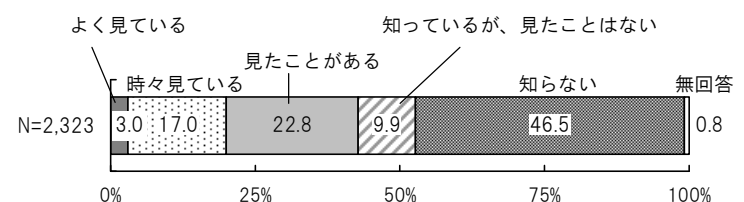
### 経年比較

- 平成23年度までにおいて、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合が4割を下回っていたものの、平成24年度で上昇に転じ、4割を超えている。



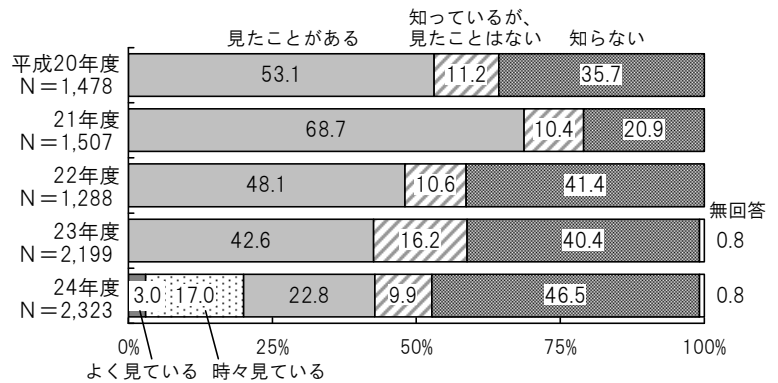
### テレビ広報番組・テレビコマーシャル

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた42.8%がテレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ている。



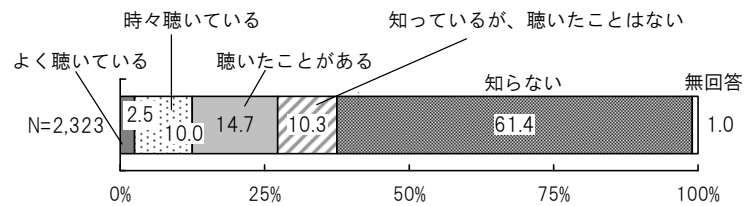
## 経年比較

- 平成22年度以降「見たことがある」(平成24年度は「よく見ている」+「時々見ている」+「見たことがある」)が低くなる傾向にある。前年度と比較すると、「知っているが、見たことはない」が6.3ポイント低く、「知らない」が6.1ポイント高くなっている。



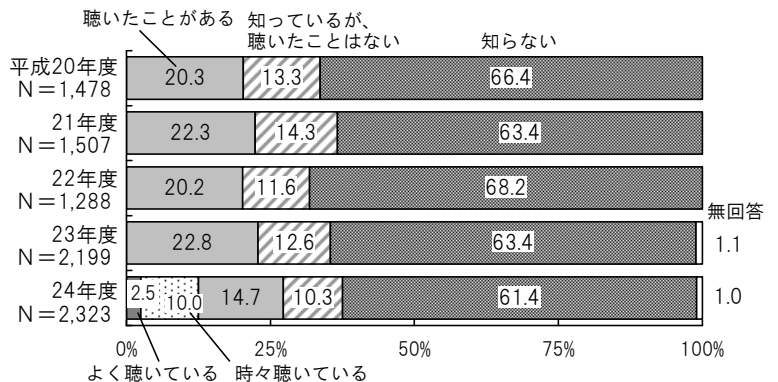
## ラジオ広報番組

- 「よく聴いている」と「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた27.2%がラジオ広報番組を聴いている。



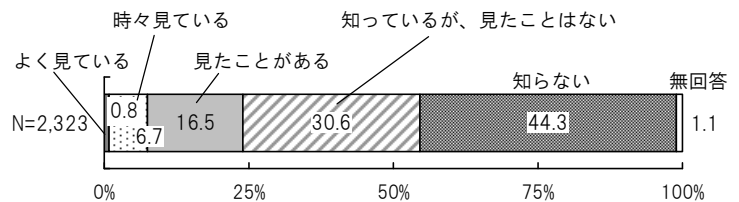
## 経年比較

- 平成23年度以降「聴いたことがある」(平成24年度は「よく聴いている」+「時々聴いている」+「聴いたことがある」)が高くなる傾向にある。



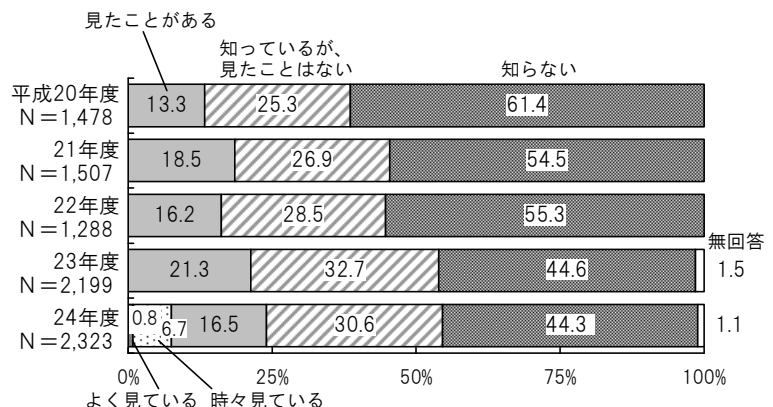
## 県のホームページ

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた24.0%が県のホームページを見ている。



## 経年比較

- 平成23年度以降「見たことがある」(平成24年度は「よく見ている」+「時々見ている」+「見たことがある」)が高くなる傾向にある。



# 日常の課題や生活における意識

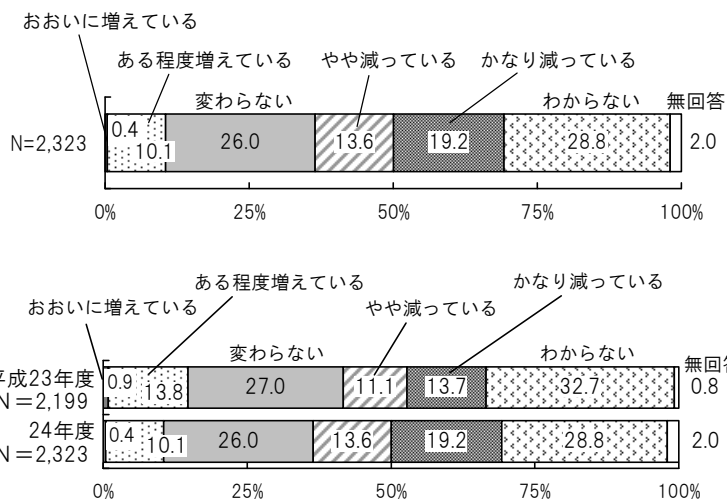
**Q7** あなたは、日常生活の中で、思いやりをもって行動できる「有徳の人」が増えていると思いますか。

## 「有徳の人」の増減

- 「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた10.5%が[有徳の人]が増えているとしている。一方、「かなり減っている」と「やや減っている」を合わせた32.8%は[有徳の人]が減っているとしており、[有徳の人]が減っていると思う人が、増えていると思う人の3倍になっている。

### 経年比較

- 前年度と比較すると、「かなり減っている」と「やや減っている」を合わせた割合が8.0ポイント高くなっている。



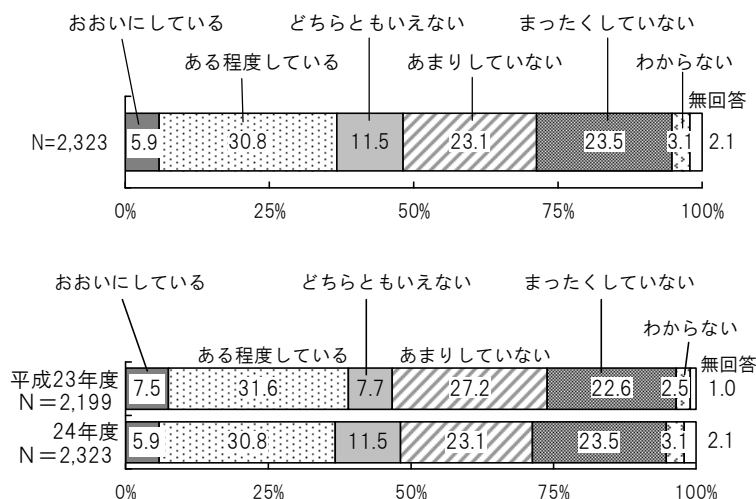
**Q8** あなたは、文（学問・学習活動）、武（スポーツ活動）、芸（文化・芸術活動）のいずれかの分野で、自己を磨く努力をしていますか。

## 文・武・芸への取組状況

- 「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた36.7%が文・武・芸を磨く努力をしているとしている。一方、「まったくしていない」と「あまりしていない」を合わせた46.6%は文・武・芸を磨く努力をしていないとしており、文・武・芸を磨く努力をしていない人の方が多くなっている。

### 経年比較

- 前年度とは大きな差はみられない。

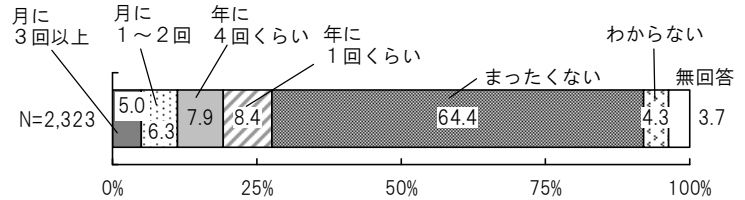


# Q9

あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。

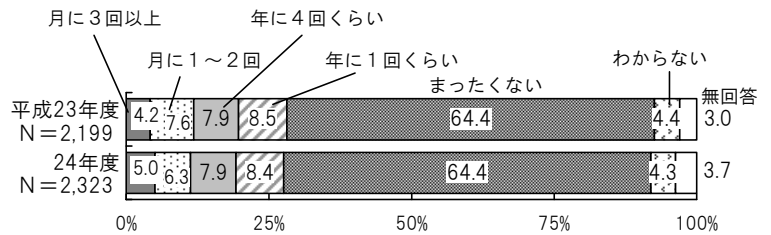
## 子どもをはぐくむ活動への参加状況

●[子どもをはぐくむ活動]をしている人は27.6%、「まったくない」人は64.4%となっている。



## 経年比較

●前年度とは大きな差はみられない。



※「子どもをはぐくむ活動」の例

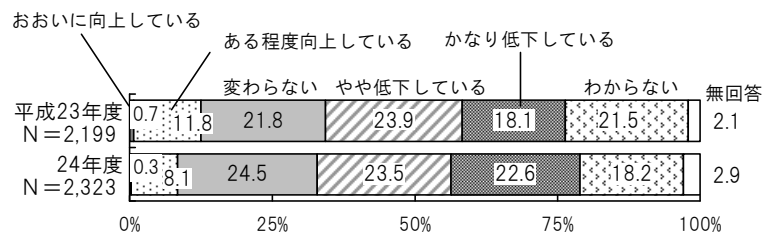
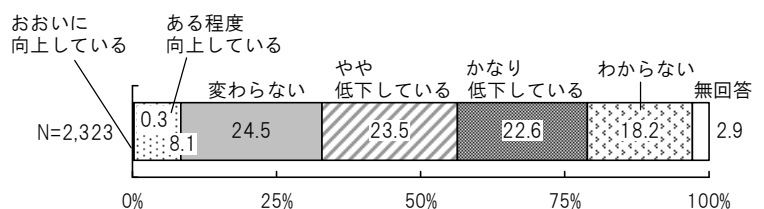
- ・PTAや健全育成会の役員会活動、父親の会、子ども会、ボーイスカウトなどの実践活動
- ・スポーツ少年団などのスポーツ指導・読み聞かせ、音楽や絵画、工作、手芸などの文化指導
- ・学校部活動、総合的な学習などの指導・交通安全、防災・防犯などの指導
- ・自然体験、社会体験、国際交流などの指導・子育てサークルなどの指導

# Q10

あなたは、自分が日常接する青少年（自分の子どもは除く。概ね25歳未満の方）の規範意識（社会のルールを守ろうとする意識）について、どう思いますか。

## 青少年の規範意識の程度

●「おおいに向上している」と「ある程度向上している」を合わせた8.4%が青少年の規範意識が向上しているとしている。一方、「かなり低下している」と「やや低下している」を合わせた46.1%は青少年の規範意識が低下しているとしており、青少年の規範意識が低下していると思う人が、向上していると思う人の5倍以上になっている。



## 経年比較

●前年度とは大きな差はみられない。

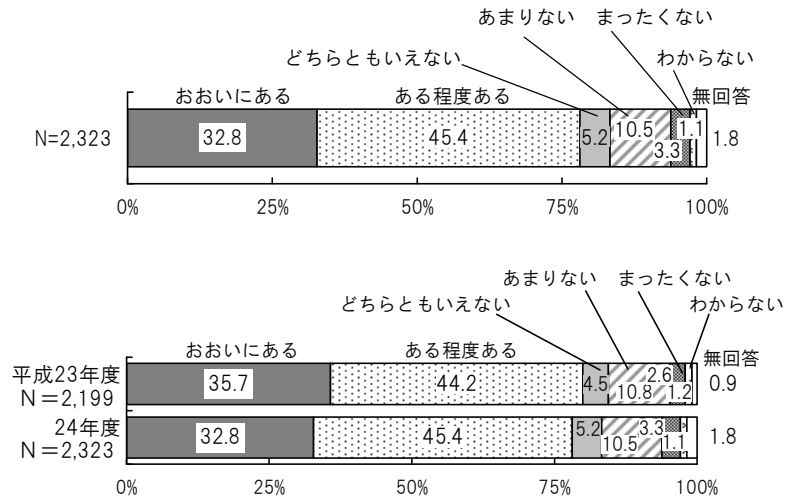
## Q11 あなたは、日常生活の中で富士山について、想ったり、考えたりすることはありますか。

### 富士山への関心

- 「おいにおいにある」と「ある程度ある」を合わせた78.2%が富士山について想ったり、考えたりすることがあるとしている。一方、「まったくない」と「あまりない」を合わせた13.8%は富士山について想ったり、考えたりすることがないとしており、富士山について想ったり、考えたりすることがある人が、考えたりすることがない人の5倍以上になっている。

### 経年比較

- 前年度とは大きな差はみられない。



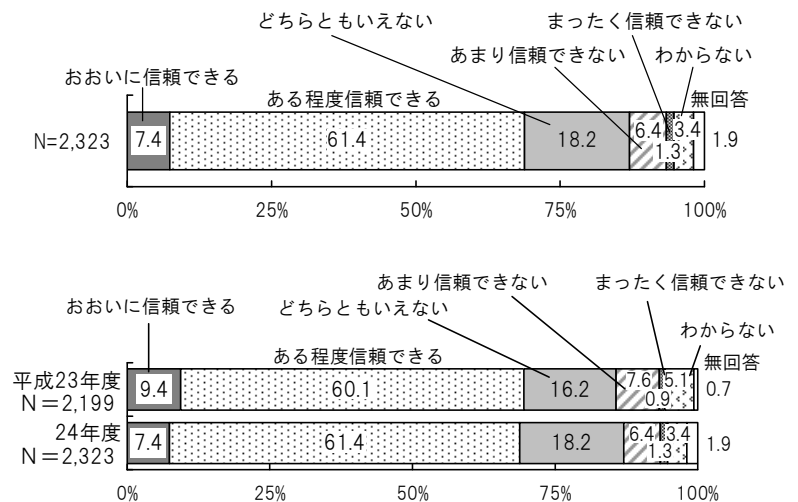
## Q12 あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。

### 食品の安全性に関する意識

- 「おいにおいに信頼できる」と「ある程度信頼できる」を合わせた68.8%が県内で購入する食品の安全性を信頼できるとしている。一方、「まったく信頼できない」と「あまり信頼できない」を合わせた7.7%は県内で購入する食品の安全性を信頼できないとしており、県内で購入する食品の安全性を信頼できる人が、信頼できない人の約9倍になっている。

### 経年比較

- 前年度とは大きな差はみられない。

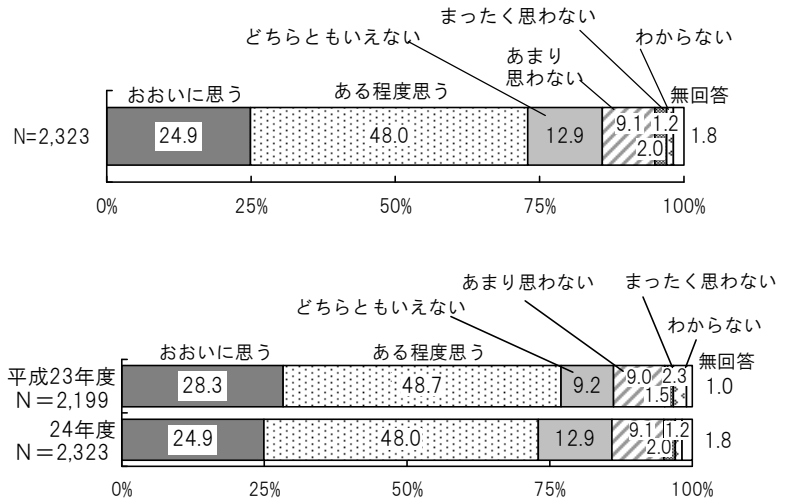


# Q13

あなたは、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思いますか。

## 地域の景観への誇り

●「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた72.9%が自分が住んでいる地域の景観を誇りに思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた11.1%は自分が住んでいる地域の景観を誇りに思わないとしており、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う人が、思わない人の6倍以上になっている。



### 経年比較

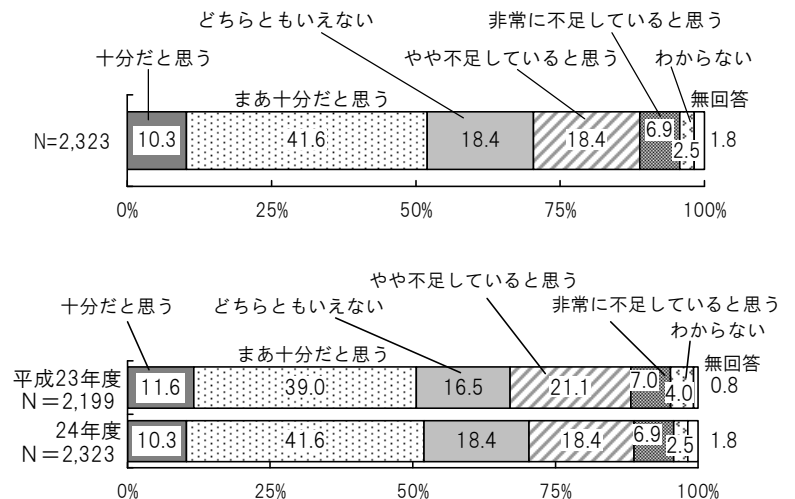
●前年度とは大きな差はみられない。

# Q14

あなたの身近にある公園や歩道などの公共的な施設の花や緑の量は十分だと思いますか。

## 花や緑の量

●「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた51.9%が公共的な施設の花や緑の量が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた25.3%は公共的な施設の花や緑の量が不足していると思うとしており、公共的な施設の花や緑の量が十分だと思う人が、不足していると思う人の約2倍になっている。



### 経年比較

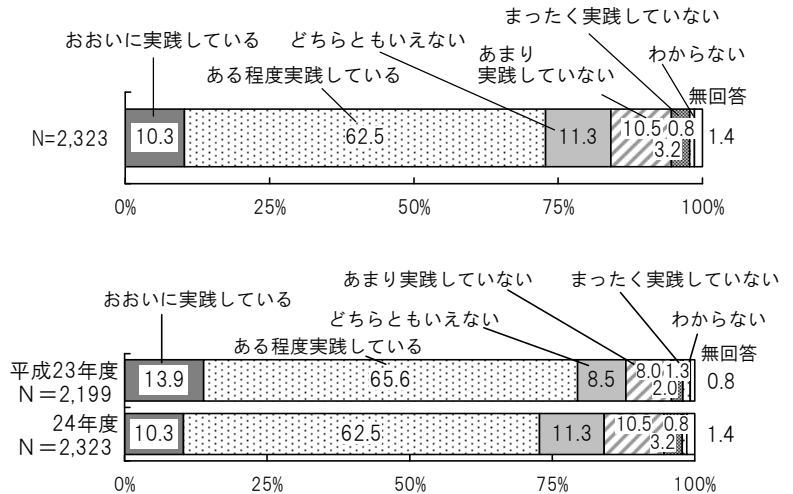
●前年度とは大きな差はみられない。

# Q15

あなたは、環境を守るための行動として、節電、節水、リサイクルなどの行動または清掃美化、緑化、自然保護などの活動を実践していますか。

## 環境を守るための行動の実践度合

- 「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた72.8%が環境を守るための活動を実践しているとしている。一方、「まったく実践していない」と「あまり実践していない」を合わせた13.7%は環境を守るための活動を実践していないとしており、環境を守るための活動を実践している人が、実践していない人の5倍以上になっている。



## 経年比較

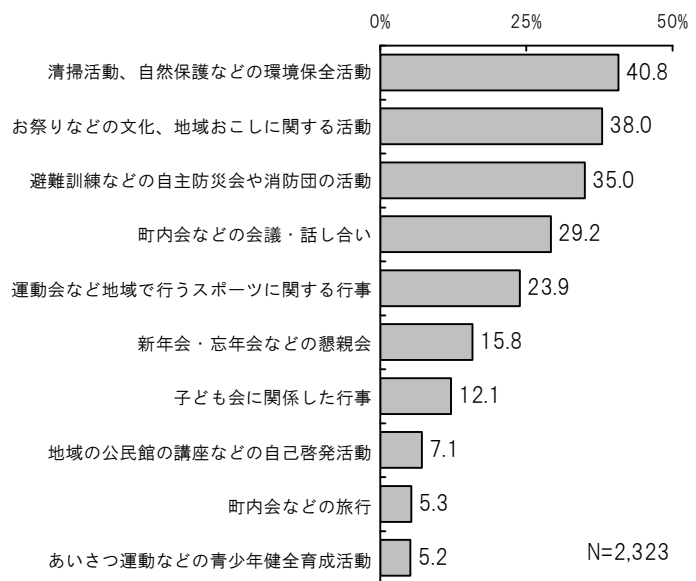
- 前年度と比較すると、「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた割合が6.7ポイント低くなっている。

# Q16

あなたは地域のどのような行事や活動に参加していますか。(M.A.)

## 参加している地域の行事や活動

- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」に参加している人の割合が40.8%と最も高い。以下、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」の順になっている。(右図は上位10位)



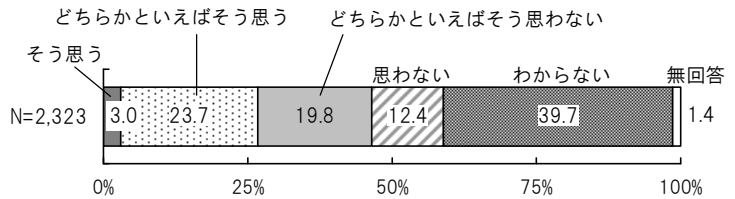


Q17

あなたは、静岡県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思いますか。

男女共同参画社会づくりに関する意識

●「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた26.7%が性別にかかわらず、個性等を十分に発揮できる機会が確保されていると思うとしている。一方、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた32.2%は性別にかかわらず、個性等を十分に発揮できる機会が確保されていると思わないとしており、個性等を十分に発揮できる機会が確保されていないと思う人の方が高くなっている。

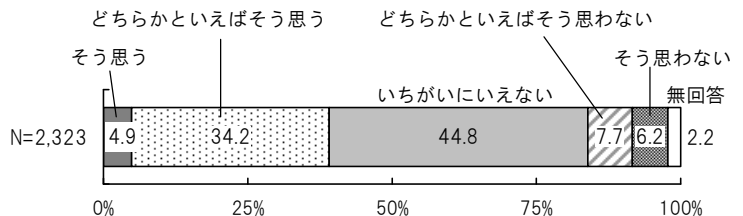


Q18

あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか。

人権尊重の意識

●「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた39.1%が[人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県]になっていると思うとしている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた13.9%は[人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県]になっていると思わないとしており、[人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県]になっていると思う人が、思わない人の2倍以上になっている。



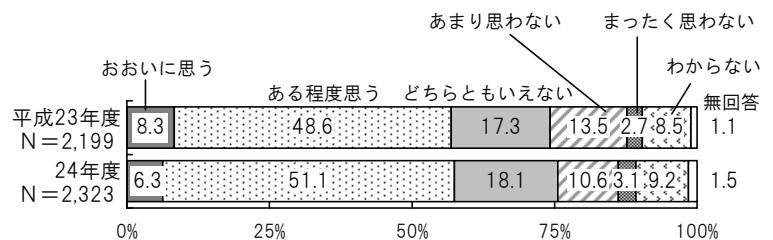
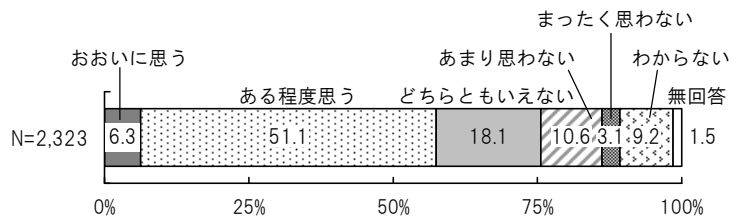
※「人権尊重の意識」…人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

## Q19

あなたがお住まいのまちは、子どもを生み育てやすいところだと思いますか。

### 子どもを生み、育てやすさ

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた57.4%が子どもを生み、育てやすいところだと思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた13.7%は子どもを生み、育てやすいところだと思わないとしており、子どもを生み、育てやすいところだと思う人が、思わない人の約4倍になっている。



### 経年比較

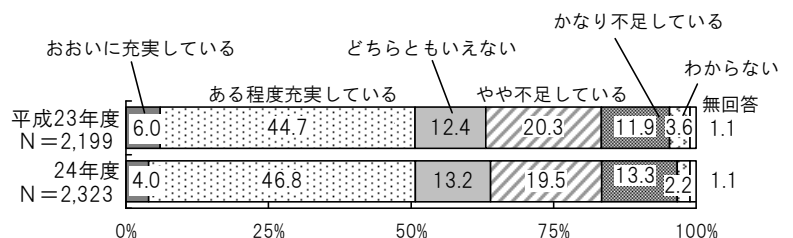
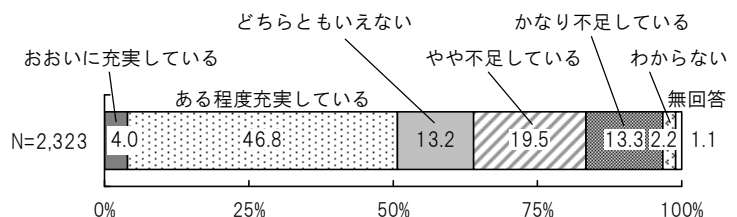
- 前年度とは大きな差はみられない。

## Q20

あなたがお住まいのまちや最寄りの都市では、商業、金融、情報、医療、交通、娯楽などあなたが必要だと思う機能が充実していると思いますか。

### 都市機能

- 「おおいに充実している」と「ある程度充実している」を合わせた50.8%が住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実しているとしている。一方、「かなり不足している」と「やや不足している」を合わせた32.8%は住まいのまちや最寄りの都市の機能が不足しているとしており、住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実していると思う人の方が高くなっている。



### 経年比較

- 前年度とは大きな差はみられない。

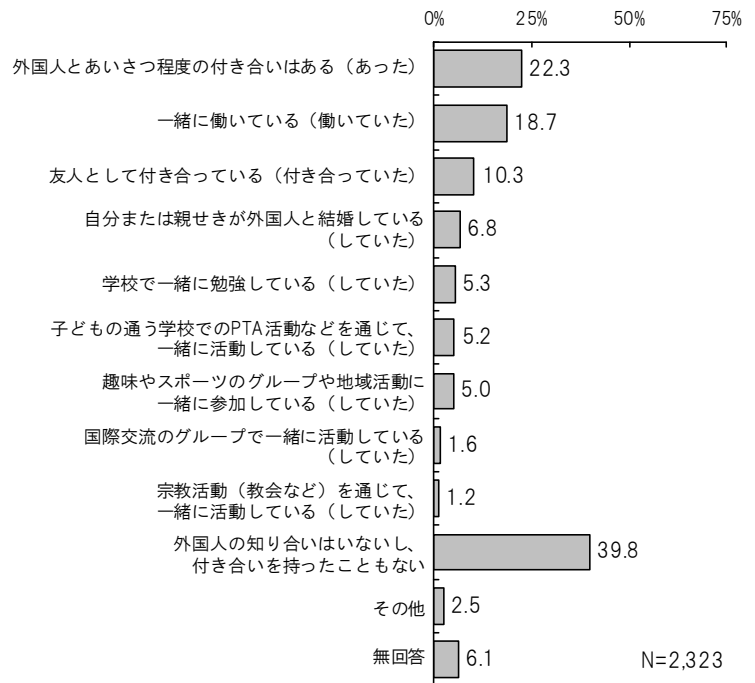
# 多文化共生社会の形成に関する意識

——外国人住民との付き合いがある（あった）人は 54.1%、親しみを感じる人は 34.9%

## Q21 あなたは外国人住民とどのような付き合いがありますか。（過去の経験を含む）（M.A.）

### 外国人住民との付き合い

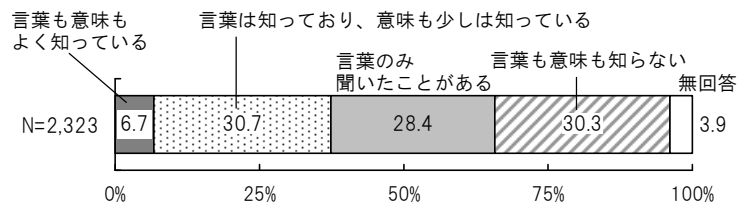
●「外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない」が 39.8%と最も高く、以下、「外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）」、「一緒に働いている（働いていた）」の順になっている。全体から「外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない」と「無回答」を差し引いた外国人住民となんらかの付き合いをしている、又はしていた人は、54.1%となっている。



## Q22 「多文化共生」という言葉や意味について、あなたはどの程度ご存知ですか。

### 「多文化共生」の認知状況

●「言葉も意味もよく知っている」と「言葉は知っており、意味も少しは知っている」を合わせた 37.4%が[多文化共生]の意味を知っているとしている。それに「言葉のみ聞いたことがある」を合わせた 65.8%は[多文化共生]という言葉を知っているとしている。

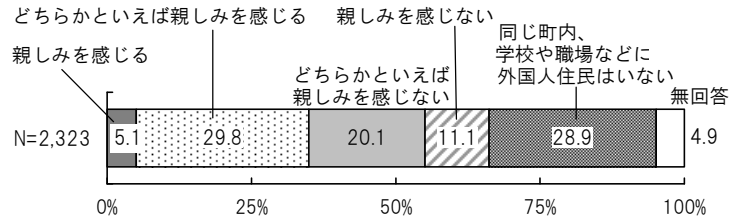


## Q23

同じ町内、学校や職場など地域で暮らす外国人住民について、どの程度親しみを感じますか。

### 外国人住民への親しみ

- 「親しみを感じる」と「どちらかといえば親しみを感じる」を合わせた34.9%が外国人住民への親しみを感じるとしている。一方、「親しみを感じない」と「どちらかといえば親しみを感じない」を合わせた31.2%は外国人住民への親しみを感じないとしており、外国人住民への親しみを感じる人と、感じない人の割合に大きな差はみられない。



## 仕事と生活の調和の実現に関する意識

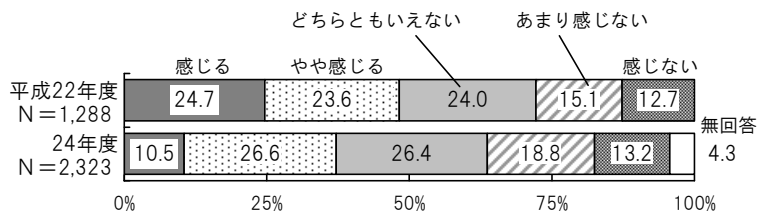
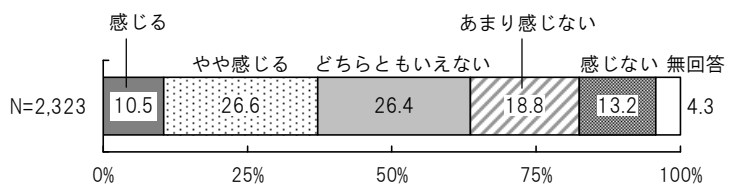
——「仕事と生活の調和」(ワーク・ライフ・バランス)が実現していると感じる人は37.1%

## Q24

あなたの生活の中で、「仕事と生活の調和」は実現していると感じますか。

### 「仕事と生活の調和」の実現

- 「感じる」と「やや感じる」を合わせた37.1%が[仕事と生活の調和]が実現していると感じているとしている。一方、「感じない」と「あまり感じない」を合わせた32.0%は[仕事と生活の調和]が実現していると感じないとしており、[仕事と生活の調和]が実現していると感じる人の方が若干高くなっている。



### 経年比較

- 平成22年度と比較すると、「感じる」が14.2ポイント低く、「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、11.2ポイント低くなっている。

# 防犯及び交通事故に関する意識

——犯罪被害に不安を感じている人は 58.1%、交通事故に不安を感じている人は 72.0%

**Q25** あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。

**SQ** 不安を感じている犯罪はなんですか。(M.A.)

## 犯罪被害に遭うのではないかと不安

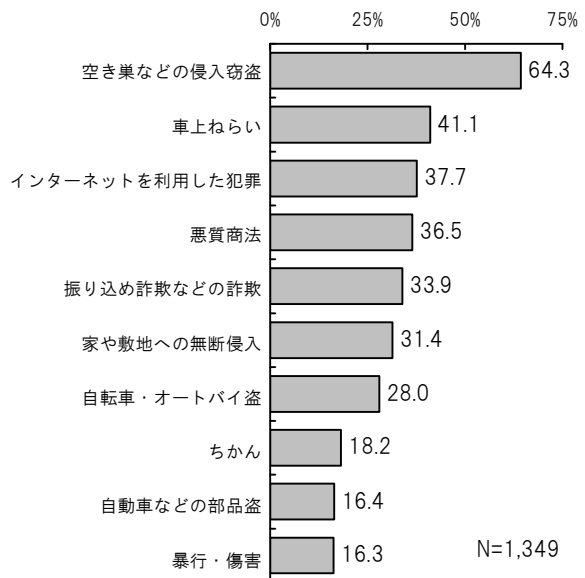
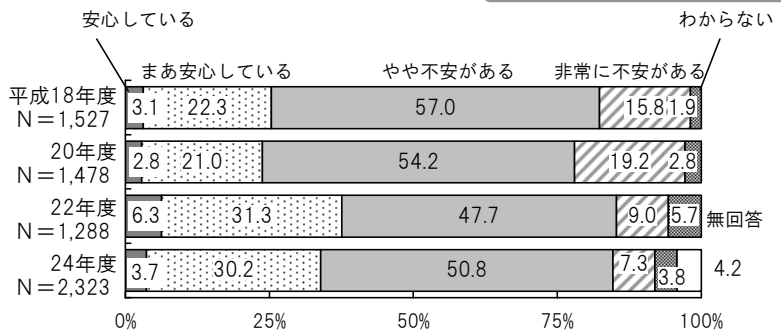
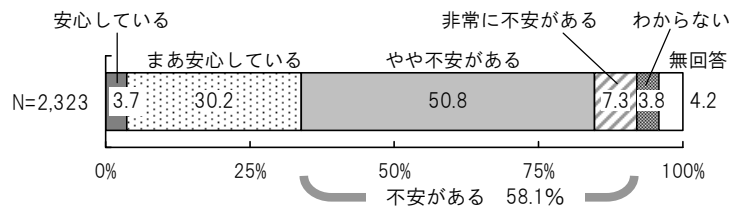
●「安心している」と「まあ安心している」を合わせた 33.9% が犯罪被害に遭うのではないかと不安はないとしている。一方、「非常に不安がある」と「やや不安がある」を合わせた 58.1% は犯罪被害に遭うのではないかと不安があるとしており、犯罪被害に遭うのではないかと不安がある人の割合が高くなっている。

### 経年比較

●平成 22 年度に比べて、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた割合はやや低下しているものの、「非常に不安がある」は、平成 20 年度をピークに低下を続けている。

## 不安を感じている犯罪

●犯罪被害に遭うのではないかとこのことに対し「非常に不安がある」、「やや不安がある」と回答した人に、不安を感じている犯罪についてたずねたところ、「空き巣などの侵入窃盗」が 64.3% と 6 割を超えて最も高く、以下、「車上ねらい」、「インターネットを利用した犯罪」の順になっている。(右図は上位 10 位)

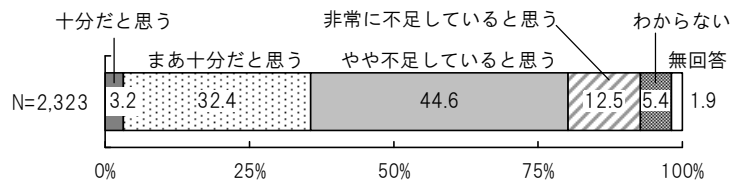


## Q26

あなたは、犯罪発生防止の点から、あなたのまちをどう思いますか。

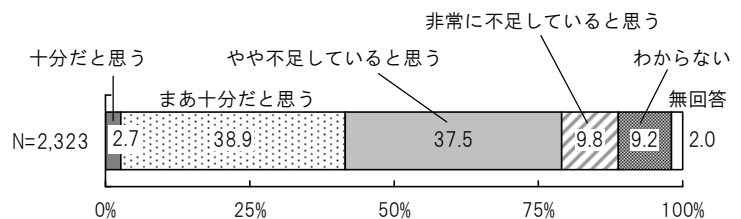
### 防犯灯や街灯の設置状況

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた35.6%が防犯灯や街灯の設置状況が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた57.1%は防犯灯や街灯の設置状況が不足していると思うとしており、防犯灯や街灯の設置状況が不足していると思う人の割合が高くなっている。



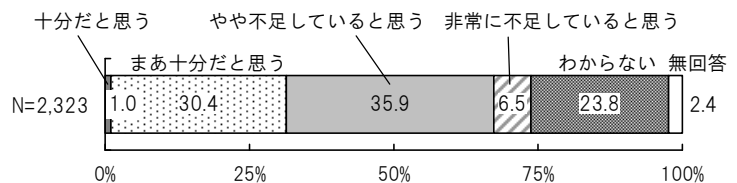
### 道路や公園の管理・整備状況

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた41.6%が道路や公園の管理・整備状況が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた47.3%は道路や公園の管理・整備状況が不足していると思うとしており、道路や公園の管理・整備状況が不足していると思う人の割合が高くなっている。



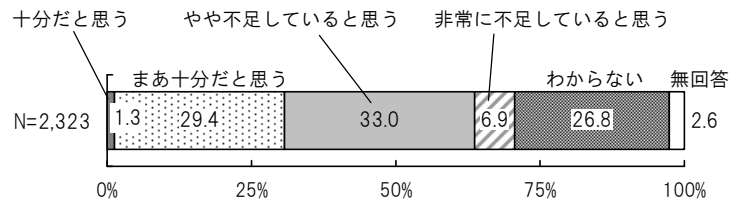
### 住宅や商店の建物の防犯管理体制

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた31.4%が住宅や商店の建物の防犯管理体制が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた42.4%は住宅や商店の建物の防犯管理体制が不足していると思うとしており、住宅や商店の建物の防犯管理体制が不足していると思う人の割合が高くなっている。



## 地域住民の自主的防犯活動

●「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた30.7%が地域住民の自主的防犯活動が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた39.9%は地域住民の自主的防犯活動が不足していると思うとしており、地域住民の自主的防犯活動が不足していると思う人の割合が高くなっている。

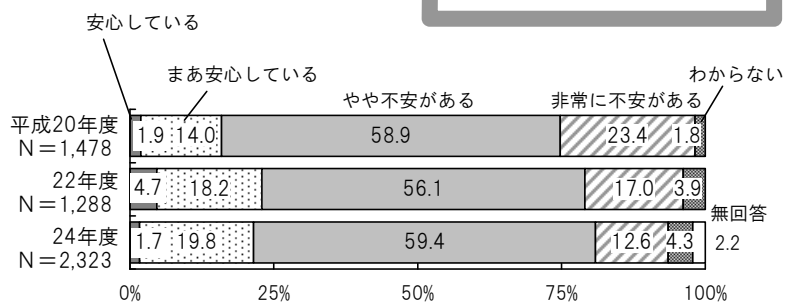
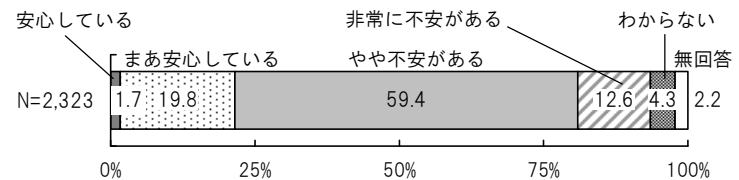


**Q27** あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で交通事故に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。

**SQ** あなたが、交通事故に遭う（巻き込まれる）のではないかと不安を感じる交通違反はなんですか。(M.A.)

## 交通事故に遭うのではないかと不安

●「安心している」と「まあ安心している」を合わせた21.5%が交通事故に遭うのではないかと不安はないとしている。一方、「非常に不安がある」と「やや不安がある」を合わせた72.0%は交通事故に遭うのではないかと不安があるとしており、交通事故に遭うのではないかと不安がある人が、ない人の3倍以上になっている。



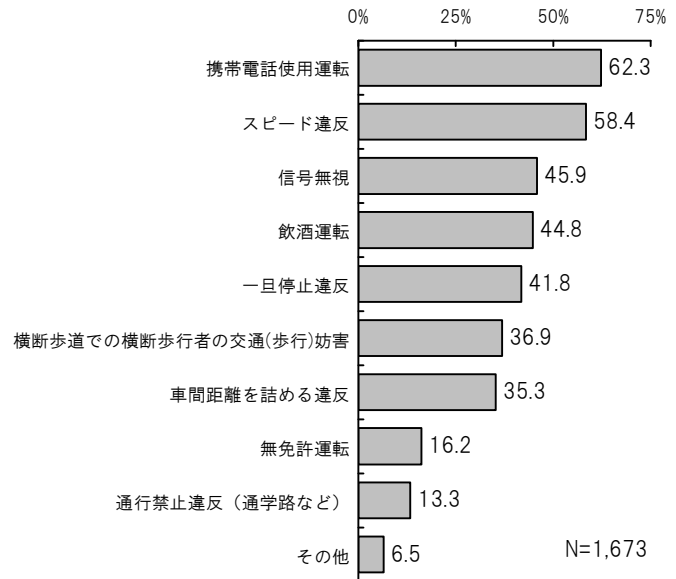
## 経年比較

●平成22年度以降「安心している」と「まあ安心している」を合わせた割合が2割程度で推移している。

## 不安を感じている交通違反

- 交通事故に遭うのではないかとということに対し「非常に不安がある」、「やや不安がある」と回答した人に、不安を感じている交通違反についてたずねたところ、「携帯電話使用運転」が62.3%と6割を超えて最も高く、以下、「スピード違反」、「信号無視」の順になっている。

不安がある 72.0%



## 社会資本整備の方向性に関する意識

——「災害に強い安全で安心な地域づくり」に重点を置いて投資すべきだという人が71.7%

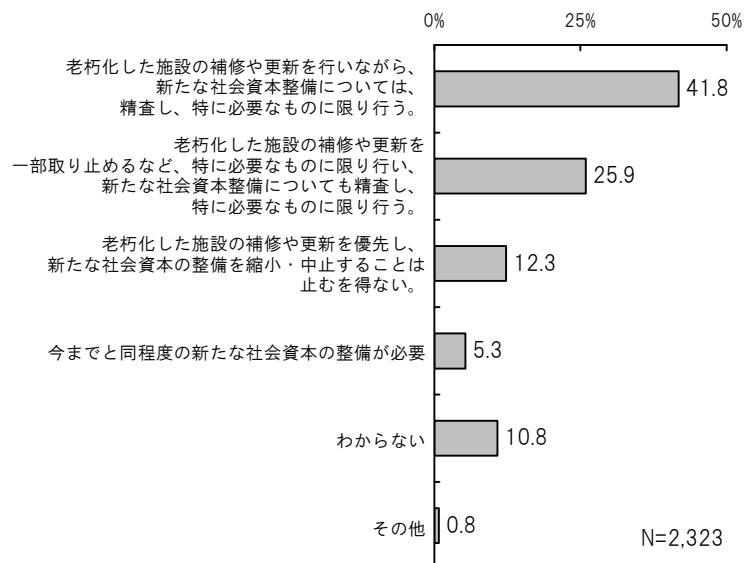
Q28

私たちの日々の生活を支える道路や下水道といった社会資本は高度経済成長期に集中的に整備されています。今後これらが老朽化し、施設の補修や更新の時期を迎えるため、近い将来には、補修や更新中心の予算となり、新たな社会資本整備への投資が難しくなると予想されています。

今後の社会資本整備のあり方について、あなたはどのように考えますか。

### 今後の社会資本整備のあり方

- 「老朽化した施設の補修や更新を行いながら、新たな社会資本整備については、精査し、特に必要なものに限り行う。」が41.8%と最も高く、以下、「老朽化した施設の補修や更新を一部取り止めるなど、特に必要なものに限り行い、新たな社会資本整備についても精査し、特に必要なものに限り行う。」、「老朽化した施設の補修や更新を優先し、新たな社会資本の整備を縮小・中止することは止むを得ない。」の順になっている。



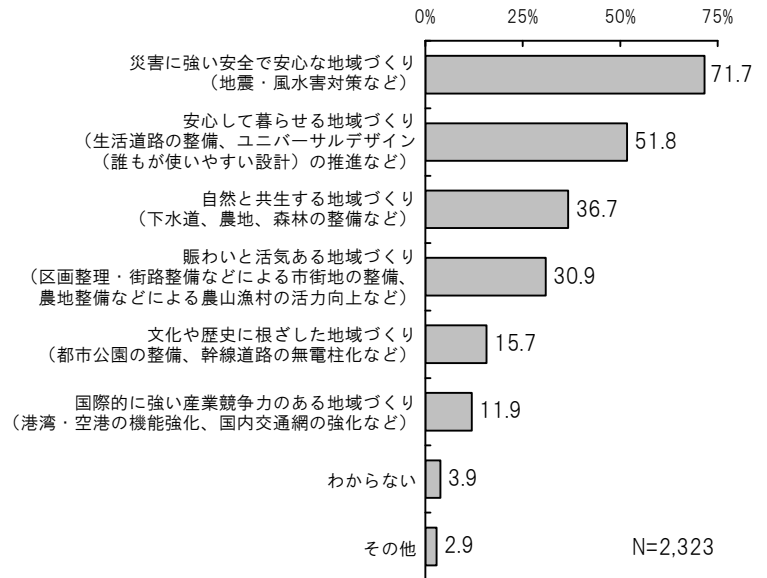


Q29

今後、より良い地域づくりのため、何に重点を置いて投資すべきと考えますか。(3M.A.)

より良い地域づくりのための投資

- 「災害に強い安全で安心な地域づくり (地震・風水害対策など)」が 71.7% と 7 割を超えて最も高く、以下、「安心して暮らせる地域づくり (生活道路の整備、ユニバーサルデザイン (誰もが使いやすい設計) の推進など)」、「自然と共生する地域づくり (下水道、農地、森林の整備など)」の順になっている。

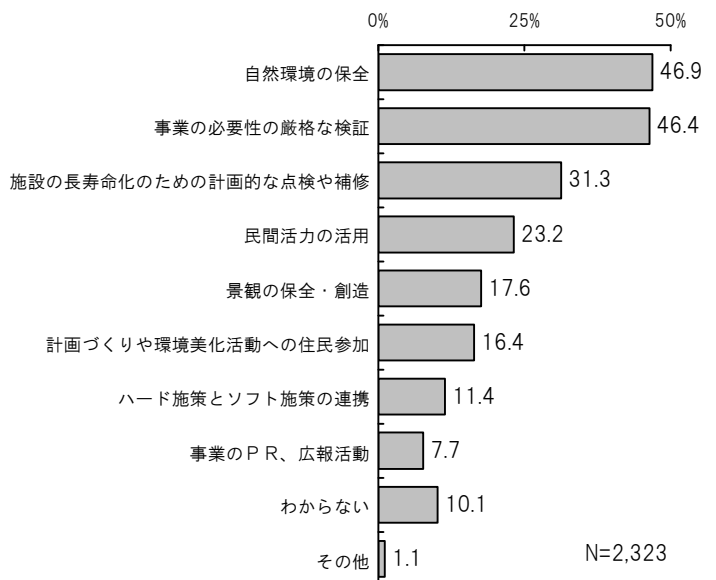


Q30

社会資本の整備を進めるにあたり、あなたが特に必要だと考える取り組みはなんですか。(3M.A.)

社会資本整備に必要な取り組み

- 「自然環境の保全」が 46.9% で最も高く、以下、「事業の必要性の厳格な検証」、「施設の長寿命化のための計画的な点検や補修」の順になっている。



# ユニバーサルデザインに関する意識

——誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると「思う」人が71.5%

Q31

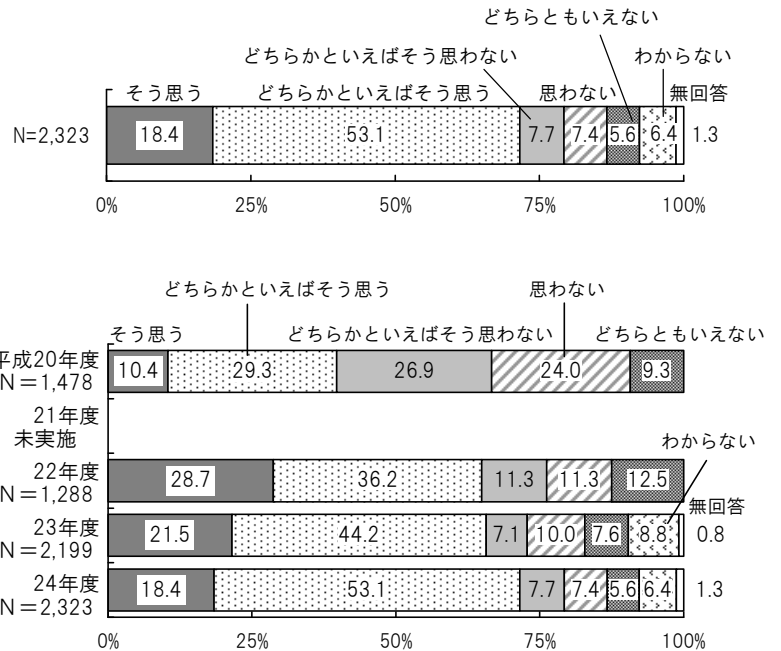
あなたの身の回りでは、公共施設（市民ホール、図書館、公園、病院など）へのスロープや多機能トイレの設置、鉄道駅へのエレベーターやエスカレーターの整備、まちや建物内での分かりやすい案内表示など、10年前と比べて、誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると思いますか。

## 誰もが暮らしやすいまちづくり

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた71.5%が誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると思うとしている。一方、「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせた15.1%は誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると思わないと、回答している。

## 経年比較

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、高くなる傾向にあり、平成24年度においては7割を超えている。

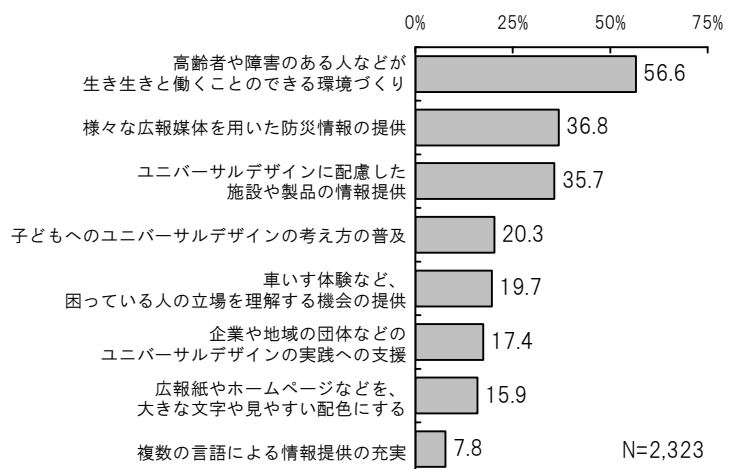


Q32

あなたは、誰もが暮らしやすい社会づくりを進めていくために、ソフト面の対策として、今後どのような取り組みをより推進していくべきだと思いますか。（3M.A.）

## 推進していくべきソフト面の取り組み

- 「高齢者や障害のある人などが生き生きと働くことのできる環境づくり」が56.6%で最も高く、以下、「様々な広報媒体を用いた防災情報の提供」、「ユニバーサルデザインに配慮した施設や製品の情報提供」の順になっている。（右図は「その他」、「わからない」を除く）



# 県政へのご意見をお待ちしています

## ○県民のこえ担当が直接お聞きします

県庁の全課（室）、また県のすべての出先機関にはそれぞれ、県民のこえ担当がおりますので、お気軽にどうぞ。

## ○時間が取れない・直接言いにくい・・・

手紙、はがき、ファクシミリ、電子メールでもご意見・ご提案・ご要望を受け付けています。

## ○県民のこえ意見箱

「県民のこえ意見箱」（意見用紙と料金受取人払封筒）を県内90箇所に設置しております。こちらをご利用ください。

<設置場所>

県庁、市町庁舎、県総合庁舎、県民生活センター、御殿場健康福祉センター、島田土木事務所、袋井土木事務所、御前崎港管理事務所、県立美術館、県立中央図書館、県男女共同参画センター、グランシップ、県立総合病院、県立こども病院、県立こころの医療センター、富士山静岡空港

<問合せ先>

静岡県企画広報部広報課県民のこえ室あて  
電話:054-221-2235 FAX:054-254-4032  
電子メール koe@pref.shizuoka.lg.jp

## 静岡県相談窓口案内

電話 054-221-2292(ふじのくに)

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-120/soudan-madoguchi.html>  
(携帯電話) [http://www.pref.shizuoka.jp/m/koe\\_soudan/index.html](http://www.pref.shizuoka.jp/m/koe_soudan/index.html)

県庁の仕事や

担当部署の問い合わせ、

県庁見学申込み

県庁案内

054-221-2455

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

---

---

平成 24 年度

県政世論調査（概要報告書）

平成 24 年 11 月

編集・発行 静岡県企画広報部 広報課 県民のこえ班

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9 番 6 号

電 話 (054) 221-2235

F A X (054) 254-4032

e-mail [kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp)

---

---